

うな丼の未来IV

丑の日のあり方を考える

ウナギは今、慢性的な資源の低迷に苦しんでいる。絶滅危惧種に指定されたウナギもある。なぜ資源はこんなにも減ってしまったのか？ どうすれば回復させることができるか？ 我々はこれからも、うな丼を食べ続けることができるのか？ 問題は山積している。日本人がこよなく愛するウナギの食文化を絶やさないために、様々な考えを持ち寄り、人とウナギの共存の道を模索しよう。今年は、一年で食べられるウナギの32%が、一気に消費される夏の土用丑の日のあり方について考えてみたい。

日本大学生物資源科学部・教授
東アジア鰻資源協議会・日本支部会長
塚本勝巳

主催：東アジア鰻資源協議会・日本支部
共催：東京大学大学院農学生命科学研究科
北里大学海洋生命科学部

日時：2016年7月9日(土) 13:00 - 17:00

場所：東京大学弥生講堂 一条ホール

定員：300名 (入場無料, 事前登録不要)

お問い合わせ：eassecjapan@gmail.com



13:00 開会の挨拶

大竹二雄 (東京大学)

13:05 趣旨説明

企画責任者 吉永龍起 (北里大学)

基調講演

13:15 学者がすすめる究極のウナギ保全法

塚本勝巳 (日本大学)

14:00 日本の養殖鰻 今昔

吉島重鐵 (日本鰻協会)

14:20 シラスウナギの来遊状況からみた鰻消費の課題

篠田章 (東京医科大学)

14:40 ウナギ味のナマズで守るウナギ

有路昌彦 (近畿大学)

15:00 ポスタセッション

16:00 総合討論

モデレータ 青山潤 (東京大学)

パネリスト 涌井恭行 (全国鰻蒲焼商組合連合会)

秋山貴彦 (パルシステム生活協同組合連合会)

吉島重鐵 (日本鰻協会)

有路昌彦 (近畿大学)

16:55 閉会の挨拶

木村伸吾 (東京大学)